

マヒドン大学看護学校スタディツアー タイ バンコク 2016年3月16~18日

看護学コース三年 五十嵐百花
看護学コース三年 丸山佳奈
引率：基礎看護学教室 竹原君江先生

渡航先での活動内容

【1日目】

- ・マヒドン大学の先生方とご挨拶
 - ・タイの医療制度についての講義を受講
 - ・ラマティボディ病院(マヒドン大学の附属病院)のERの見学
 - ・マヒドン大学の図書館の見学
 - ・東京大学についてのプレゼンテーション、自己紹介プレゼンテーション
 - ・マヒドン大学の看護学生との交流
- タイの医療制度やマヒドン大学のことについて知ることができた。
ERの見学ではタイの救急医療の体制や救急病棟の様子を理解した。
プレゼンテーションの質疑応答とアクティビティ(現地の学生とのゲーム)で現地の学生と親睦を深めることができた。



タイ医療制度についての講義



ラマティボディ病院ER見学

【2日目】

- ・アユタヤのHealth Promoting Hospital (HPC) の見学
 - ・訪問看護の見学
- タイ・アユタヤでの、地域レベルにおける医療を理解することができた。



アユタヤのHPC見学



訪問看護見学

【3日目】

- ・ラマティボディ病院外科病棟見学
 - ・ラマティボディ病院ICU見学
 - ・ラマティボディ病院精神科病棟見学
 - ・まとめ、活動証明書授与
- 各病棟の見学では、タイの病院の日本との違いを感じ、日本でも取り入れられそうな工夫もいくつか発見した。
最後にマヒドン大学の先生方と今回の研修に関してや私達の今後の進路についてお話しする機会を頂き、有意義な時間を過ごすことができた。



ラマティボディ病院外科病棟見学



マヒドン大学の先生方、看護師の方と

目的を達成できたか

タイの医療制度を概観し、学生と交流し、興味分野である精神科の見学もできたので、当初の目的は達成した。(五十嵐)

目的としていた、国外の医療の状況を見るということが十分にできた。また、ERの見学を入れて頂き、興味分野への理解を深めることができた。(丸山)



精神科病棟見学

グローバルな視点とは何か

今回驚いたのは、看護師や病院スタッフが明るく笑って、笑顔と挨拶に満ちていたことである。制度などについて自国と比較を行うことも意義があるが、理屈抜きの文化に気づきを与えられることもあると学んだ。



笑顔に溢れていた救急病棟

将来の進路決定へどう影響したか

海外に行くことへの抵抗がなくなり、今後海外で学んだり働いたりする機会があれば積極的に参加したいと思うようになった。(五十嵐)

国内外問わず様々な活動の場があるということを感じたため、選択肢の幅が広がった。(丸山)



マヒドン大学学生との交流

目的以外に学んだ点、反省点

日本の病院のことや医療英単語をもっと知っていたらよかった。(五十嵐)

日本の医療に関する知識もまだ不十分であると実感したので、今後勉強を重ねていきたい。(丸山)



マヒドン大学の3年生が英語で説明する様子

後輩へのアドバイス

タイ語は必要ないが、英会話で聞き取りのみならず、自分の言いたいことを言うようにしておく方が良い。質問をしつたりされた時にスムーズなやり取りができる。また、医療系の英単語を知らないと理解に苦労するので、なるべく覚えておいたほうが良い。



五十嵐さんのプレゼンの様子

研修支援制度に望むこと

マヒドン大学の方々は皆親切で、困ったこともなく、楽しく安心して研修を終えることができた。このような機会を与えられたことはとても幸運だった。自分から渡航先を見つけて研修を申し込むのは困難なので、企画に参加する形はとてもありがたかった。



マヒドン大学の先生方、学生の方々、三重県立大学の方々と